

さいたま
見沼

よみさんぽ

2025

Vol. 52

まち歩き 20

踏切を訪ねて2 見沼区

踏切を訪ねて2 見沼区

前は、東武野田線の踏切を大宮からたどって大和田駅手前の「野18号踏切道（以下〇号踏切）」までやってきました。この18号踏切の前は9号踏切でしたから、この間にあった踏切「10～17号」の8か所がなくなっていて、そのうち立体交差になったのはおそらく3か所だけ。ずいぶん多くの踏切がなくなったことがわかります。野田線の踏切は大宮駅から順番に番号がついていて、廃止や立体交差で踏切がなくなると「欠番」（便宜的な呼称として使用します）になるのですが、9号と18号の間はさいたま市内を走る野田線の中で最も欠番の多い区間です。

あぜみち 畦道踏切

踏切の廃止について、1973年の朝日新聞（11月21日付）にこんな記事がありました。「遠回りへの不便も／春日部駅から野田線に乗って大宮方面へ向かう。駅構内を抜け出したとたん、踏切の連続である。1キロ進むのに十一カ所も出くわしたところがある」と、踏切の多さに加え、その多くが第四種踏切で、車1台がギリギリという幅員の狭い踏切であることを嘆いた記事です。開通時は「田んぼの真ん中を突っ切って線路が敷かれ……畦道ごとに踏切ができ……私道につけた踏切も残っている」状態だったとか。「畦道踏切」という言葉も使われていました。その後、周囲の道路が整備されないまま宅地化が進んだ結果ということです。廃止には地元の同意を得るのが難しいこともあり、踏切の数も第四種踏切も多かった70年代の、おそらく野田線だけではない踏切事情が現れています。

さいたま市内も事情は同じだったはず——10～17号踏切があったあたりは見沼田んぼを突っ切って線路が敷かれているのですから。70年代にはまだ「畦道踏切」があったかもしれません。

大和田駅から七里駅へ（18～28号踏切）

野田線はどの駅も近くに踏切がありますが、18号踏切は駅の隣と言ってもいいほどの近さです。比較的大きな踏切で、人と車と電車がせわしく行きかっています。この踏切を渡り、線路と並行する細い道を行くと、そこは懐かしい



東武野田線の踏切



21号踏切



25号踏切

風情の床屋さんがあるような静かな道でした。「19号踏切」は欠番ですが、1980年の住宅地図にはそれらしい踏切が載っています。少し歩くと「20号踏切」と「21号踏切」、どちらも大型車両禁止のかわいい踏切ですが、片側1本とはいえ遮断桿のついた第一種踏切です。

21号踏切を過ぎるとすぐ「大和田変電所」があります。ここができたおかげで野田線にも6両編成の電車が運行できるようになったとのこと。そういえば2両編成から4両、6両と車両が増えるたびに駅のホームが長くなっていったものでした。今でもホームを継ぎ足した跡のわかる駅があります。

「22号踏切」は欠番で、次も小さな「23号踏切」です。いくつか続いた小さな踏切ですが、周囲が住宅街のせいか通行量は決して少なくありませんでした。そのまま進むと大きな木々に囲まれた建物が見えてきました。「正福寺」です。市指定文化財の円空作仏像を所蔵、庭にも観音菩薩や六地藏などの石仏があり、大きなイチョウの木も見事でした。

「24号踏切」は欠番。正福寺の門を出てぐるりと周ると「25号踏切」が見えてきます。この踏切は車道部分の遮断桿とは別に歩道専用の遮断桿がついています。歩道部分は後からつけたのでしょう。警報灯や遮断桿などがたくさん。



28号踏切

ここまで小さな踏切が続いたこともあって堂々とした踏切に見えました。

「26号踏切」と「27号踏切」は欠番ですが、1980年の地図では蓮沼小学校のすぐ南側に踏切があります。このときはまだ、どちらか1か所残っていたのでしょう。今は2か所欠番ということで、次の28号踏切まで結構距離がありました。踏切の廃止によってかなりの遠回りをしいられたはず、よくぞ地元の理解が得られたものです。

「28号踏切」は七里駅の西側，“ホームのすぐ近く”という場所にあります。1994年、ここで事件が勃発しました。この踏切から二人乗りのオートバイが進入、そのまま七里駅の構内まで線路上を走ってきたというのです。駅員に見つかった中学生風の2人はオートバイを線路上に置いて逃げましたが、まもなく電車が駅に到着する時刻。駅員が必死で走り駅の手前で停車させたということです（『朝日新聞』11月5日付）。けが人もなく15分後には運転再開、すんでの所で大事故は免れましたが、駅から近い踏切だからこそその事件と言えなくもありません。

七里駅から綾瀬川まで（29～41号踏切）

「29号踏切」は七里駅前を過ぎてすぐの所。今は駅が高架になりましたが、それ以前は28号か29号の踏切まで行かないと線路を越えられませんでした。ここは県道322号にある交通量の多い踏切なので、写真を撮るにも邪魔にならないよう気を使います。それにしても28号踏切から七里駅前をぬけて29号踏切までの商店街、気のせいか居酒屋が多いような気がしました。それ以外の商店が少ないので居酒屋だけが目立ったのかもしれません。地域の特性とか特有の文化とかあるのでしょうか。ちょっと不思議です。

少し歩くと「30号踏切」。遮断桿1本、大型車禁止、の小さな踏切で、夏などそばの林の木々に埋もれてしまいそうです。このあたりからは耕作地が増えてきて、歩いていると心がゆるゆるとほぐれてゆくのがわかります。農業をやりたいしないで、田畑を見てほっとしているだけなんて——我ながら勝手なものです。この踏切のそばには「風の子公園」という小さな公園があり、“踏切歩き”のひと休みにはうってつけ、思えばここまでの道のりに“ちょっとひと休

み”できる場所は無かったような……気がします。

「31号踏切」は欠番ですが、その割に「32号踏切」はすぐ近く、やはり小さい踏切ですが、北側は急坂になっていて斜めに入ってくる道にあります。しかも渡った先に線路と並行した細い道まであるので、夜など車では通りにくいだろうという踏切でした。この先には見沼代用水東縁があるので、橋のある所まで線路から少し離れた道を進みます。次の踏切まで線路の長さ（距離）はあまりないのに、今は欠番ですが、かつては「33号・34号・35号踏切」がありました。1980年の住宅地図には36号踏切の少し手前に踏切があります。35号と断定はできませんが、欠番の中の一つであることはまちがいありません。

「36号踏切」の周囲は、畑、道、林、民家……それらのすべてが溶け合って心地よい風景を生み出していました。——その空気感を伝えられるような言葉も写真の技術も持ちあわせていないのが残念です。さらに36号踏切がこの風景になじんでいて心地よさを高めていました。市内にこういう場所があるのを嬉しく思います。

次の「37号踏切」も小さな踏切です。1967年の『埼玉新聞』（5月12日付）に「ここに踏み切りあり／大宮に回転式警戒標識」という見出しの記事が載っています。これは37号踏切のことで、おそらく警報機も遮断桿もない第四種踏切だったのでしょう。“見通しが悪く事故が多かったため、地元から警報機設置の要望が出されていたのですが、このたび大宮署が標識をとりつけた”という内容。その標識は「赤と黄二色の標識板が風の力で回転する仕組み」のもので、標識板の写真（モノクロ）も掲載されています。回転することで「地元の人たちも『これなら目につく』といっている」と喜んでいたようですが、風が吹かなければ回転しないのですから、普及しなかったのもうなずけます。

この記事に気になる点がありました。「37号踏切（通称観音堂踏切）」と書かれていたことです。観音堂があるのでしょうか。『見沼区ガイドマップ』（2024）を見ると、近くに「卍金光山不動尊」とあります。地図の該当場所へ行くと、地域の集会所のような建物がありました。祠よりは大きく、でもあまりお堂という感じのしない建物。施錠されていて人の気配はありません。そばに「大宮市指定／文化財彫刻／観音堂円空作竜頭観音像



36号踏切

他三軀」と書かれた標柱が建っていたので、ここが観音堂だと確信はしましたが、防火や保存を考えると“まさかここに円空仏が？”と思うくらい無防備でした。文化財の説明板だったとおぼしき看板はありましたが文字は見えませんでした。

後日『大宮の文化財』等で調べてみると、昭和36年12月9日大宮市文化財に指定された4軀の円空仏——竜頭観音像、菩薩像、神像2軀でした。「かつて宮ヶ谷塔観音堂（長島家の北側）に安置されており、秘仏とされて拝むと目が潰れるとの言い伝え」があったとか。個人蔵ですが、現在はさいたま市立博物館に保管されています。25号踏切の近くにあった正福寺もそうですが、中川の円蔵院、南中野の正法院など、見沼区は円空仏を蔵する寺院や個人が多い地域ということも知りました。

次は「38・39・40号踏切」の3か所が欠番でいきなり「41号踏切」です。間には東大宮バイパスが横切っていて「宮ヶ谷塔陸橋」がかかっていますから、欠番のうち一つ（たぶん39号）は場所が少しずれるものの立体交差になったと言えます。1980年の地図には「バイパス工事中」と点線が描かれ、まだ3か所の踏切がありました。

宮ヶ谷塔陸橋を過ぎ深作川を渡ると「41号踏切」、見沼区最後の踏切です。線路沿いの細い道を歩くと、遮るものが無いので遠くからでも踏切が見えます。欠番の一つは41号踏切の見えるこの辺りにありました。「畦道踏切」に近いものだったのですが、近くの踏切が廃止になれば、線路の向こうの畑へ行くのに離れた踏切まで行かなければなりません。不便に感じたことでしょう。41号踏切を過ぎるとすぐに綾瀬川。向こう側はもう岩槻区です。

（記 並木せつ子）



41号踏切



綾瀬川を渡る野田線



素材の甘みを味わう「さつまだんご」

「埼玉郷土の食」をお届けしてきましたが、最終回はさつま芋の粉で作る「おやつ」「茶うけ」の「さつまだんご」です。入間台地は江戸時代から干ばつに強いさつま芋の栽培が盛んです。平地林の豊富な落ち葉を堆肥に使い品質改良を重ね特に「紅赤系」は市場で大人気の商品作物になりました。一方農家では売り物にならない傷芋や小さいくず芋を食べます。芋は天日でカラカラに干してから保存しました。その芋を石臼で挽いて粉にしたものがさつま粉です。挽いた粉はうす茶色ですが熱を加えると焦げ茶色になるのは不思議なところ。さつまだんごは茶摘みの頃は大量に作り、「茶うけ」として集められた摘み手の重労働をねぎらうものであったそうです。

さて今回は市販の粉を使いました。白玉粉や牛乳を加えるなどのレシピもありますが、昔ながらの作り方です。さつまいも粉100gにお湯100ccを加え耳たぶくらいの柔らかさにこねます。塩少々を加えレンチンしたさつま芋をくるんでから、15分ほど蒸しました。ほんのり甘くもっちり食感、焦げ茶と黄色



のコントラストも楽しいものになりました。余ったさつまいもは茶巾絞りに、美しいお芋の「茶うけ」が完成です。

(記 浅見 典子)



割るとお芋の彩りが美しい
芋を入れない場合はきな粉をつけるのがおすすめ

べらんめえ

前回までのお話

狭い路地、密集する家屋……住民の暮らしが垣間見える路地での暮らし。大規模災害に備え、地域住民と行政が共同で建て替えを考える「まちづくり」事業に参加することになりました。

その一環として行った街区の建て替え提案ですが、地域住民の反応はいまいち。迎えた住民説明会も重苦しい雰囲気ですスタートしました。

炎上

建て替え事業の方法は目的によって適用する法律が異なり、事業主体が変わってきます。事業主体の違いは、行政などが土地や建物の買い上げを行うことで事業を進める買収による方式と、該当する街区に住む土地建物の権利者自らが組合を設立し、公的な補助を受けながらマンションを建てる開発事業者などの事業参加者などを得て進める組合方式があります。

今回の事業は規模や目的から組合方式を選ぶ見込みでした。（前回触れた）大学教授の「建て替えは皆さんで行ってもらいます」発言は、「組合方式」なので、住民が（専門家や事業参加者のサポートと公的な補助を得て）自ら進める……という意味合いだったのですが、ちょっと言葉が足りなかったようです。

話の舞台となっているのは東京の下町。話せば分かる人たちですが、べらんめえな言葉遣いは、同行していた学生たちには少々言葉がキツかったようです。住民からの怒号の中、大学教授が表現を変えながら説明に励むものの、それが火に油を注ぐことに……行政の担当者は必死に説得をし、私はため息をつく。そんな修羅場が続きました。

ためらいつつも計画図を……

騒ぎの中、専門家グループのメンバーの1人が「たたき台ですが、建て替えた場合の案を用意してきたので見てみませんか？」と発言。事業が成立するかを量るために作成した計画図でしたが、勝手に建て替え案を作られることに反発があるかもしれないからと提案をためらっていた計画図でした。

意外なことに、住民側も建て替え計画には興味があったようで、どの程度の規模のものに建て替えできるかや、参加する範囲が広がるほどメリットが増すことなどを説明しました。計画の初期段階では、住民の住まいの具体的なことは示さないとも伝えました。一番の関心はそこだったかもしれず、白けた雰囲気の中、次の集まりの約束を決めて、その日はお開きとなりました。（つづく）



地区内の空き家

とまつりしゅんいちろう
都祭俊一郎

1975年生まれ、生まれも育ちも、東京の下町。
エンジュの新築の他、保育園や幼稚園の設計（新築及び改修）
を複数行う。（写真 新 良太）





未来を拓く

つなぐつくるプロジェクト・20



キッチンカーで地域交流を！

「みぬまるデー」に出店しました

初の試み「みぬまるデー」

2024年10月5日（土）10：00～13：00の時間で「地域密着型マルシェ みぬまるデー」に出店してきました。主催・場所は「ケアサポートサロンみぬま」（見沼区南部圏域地域包括支援センター）さんです。

「ケアサポートサロンみぬま」は、今年で開所7年を迎え、地域の皆さんが活動する場、集う場として多くの方が利用されている地域包括支援センターです。今回の「みぬまるデー」は初めての試みとのもので、私たちやどかりの里にお声かけいただき、今回は喫茶ルポーズを中心に、5人の障害のあるメンバーと、キーマカレー／挽きたて・淹れたてのホットコーヒーを提供しながら地域の方々との交流を楽しんできました。

いろんな人とつながる機会に



近隣の障害福祉サービス事業所にも声をかけていただき、「特定非営利活動法人ゆいのわ」さん、「一般社団法人あるかでいあ」さん、「特定非営利活動法人ひかり福祉会」さんのほかに地元農家さんや「クラフトの会」さん、「Ogucafe」さんなど、多くの出店者とともに「みぬまる



デー」を盛り上げてきました。

特に「特定非営利活動法人ひかり福祉会みどり園」はコーヒー豆の焙煎を事業種目としていくことを聞き、当日はみどり園さんから豆を仕入れ、ルポーズがホットコーヒーを淹れて販売したところ、大好評でした。

キッチンカーでの対面販売

当日は雨も降り、使おうと思っていたテントのハリが見つからず、急遽調達するというハプニングもありましたが、多くの地域の皆さんが集い、大変にぎわいのある「みぬまるデー」となりました。

「ルポーズに行ったことがあるわよ、また機会があったら行きますね」「カレーがおいしかった、ありがとう」などお客様から声をかけていただき、街に出向き、キッチンカーで対面販売するうれしさと喜びを体感してきました。年間を通して、「キッチンカーで販売しませんか」と多くの事業者の方々からお誘いを受け、できる限り参加、販売しに行こうとメンバーと話しています。みなさんの街で出会えるよう、これからもキッチンカーをフル活用していきます。ぜひお立ち寄りください。皆様のご来店をお待ちしております。

(記 田中 学)



喫茶ルポーズ

〒330-0834

さいたま市大宮区

天沼町1丁目136-2

TEL

048-657-0202

営業日 月～金、祝日

10:00～16:00

ヤギ日誌

大人気の喜々と楽々 秋空のもと



2024年10月12日（土）緑のトラスト1号地・見沼田圃周辺斜面林（さいたま市緑区南部領辻）で「未来を拓く つなぐ・つくるプロジェクト」は、「ヤギと自然となかよしに」をテーマに地域巡回を開催しました。森のマルシェや太陽光発電を身近に感じられる企画や森の音楽祭が開かれました（写真1）。

この地では、NPO 法人エコ、エコさんのご協力で年に数回「地域巡回」を開催してきましたので、喜々（男の子）と楽々（女の子）に会いに来てくださる子どもたちも増えてきました。喜々と楽々も気持ちよい秋空の下、のんびりと過ごすひと時となりました。写真で綴るヤギ日誌です。

喜々は楽々よりも一回り体も大きく、食事時など楽々を押しつけてしまいます。ところが実は小心者で、この日も楽々がすでに乗り込んでいるトラックに乗るのを嫌がります（写真2）。そして車で10分ほどのトラスト1号地に到着。段々人が集まってきて、喜々と楽々は大勢の人に囲まれます（写真3）。ヤギたちはスギナが好きだったとスギナを摘んできて、楽々にスギナをプレゼント



写真1



写真2

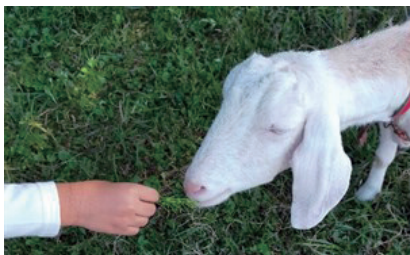


写真3

写真4
写真5



写真6

してくれました(写真4). 楽々もお日様を浴びて気持ちよさそうです(写真5). 喜々と楽々が頭突きを始めました(写真6). 「喧嘩しているの?」と心配する声もあるのですが、喧嘩というよりも、秋空の気持ちのよい空気の中でじゃれあっているようにも見えます.

次にトラスト1号地に喜々と楽々が遊びに行くのは、2025年の田植えの頃ではと思います. ぜひ喜々と楽々に会いに来てください. (記 増田 一世)

インフォメーション

ビルメンテナンス・不動産管理
建物修繕工事請負・指定管理業務

M 今日も 明日も そっと。
毎日興業株式会社

〒330-0842

埼玉県さいたま市大宮区浅間町 2-244-1

TEL:0120-156-365

<受付時間 8:30 ~ 17:30>



スタッフ
募集中!

片柳地区社会福祉協議会

つながりを大切に活動しています



048 (686) 8601

開設時間

月曜日～金曜日
10時から16時



お問合せ 見沼区障害者生活支援センターやどかり
電話 048-682-1101
火～土曜日（祝祭日を除く）9:00～18:00

不用になった

無料で

パソコンの回収をしています

古くても
壊れていても
大丈夫です!

デスクトップ
パソコン



ノートパソコン



携帯電話
タブレット



ゲーム機
ソフト



* AC 電源・キーボード・マウス・ケーブルも回収いたします。

ご自宅へ引き取りに伺います
まずはお問い合わせください

データについて

当事業所ではパソコンやハードディスクの記憶媒体に傷をつけて物理的に破壊します。希望される方には破壊証明書を発行いたします。

パソコン解体の取り組み

ご寄付いただいたパソコン等は、解体・分別により再利用・再資源化されます。障害のある人の仕事づくりになる取り組みです。

ご寄付お問い合わせ先 あゆみ舎

TEL 048-648-2555

mail ayumisya@yadokarinosato.org

すべての人々が人間らしく豊かに育ちあえる地域づくりをすすめるために

こうぬまふくしかい

社会福祉法人 鴻沼福祉会

こころを込めた手づくりの品をぜひ一度お試しください



い ち ぶ
とうふ屋 一豆

TEL 048-854-8000

FAX 048-854-3538

さいたま市中央区上峰2-10-20

つばさ共同作業所とそめや共同作業所が手がける、国産・手づくりにこだわった本格とうふ。
宮城県産高級大豆「ミヤギシロメ」を100%使用し、オリジナル惣菜も人気です。
大豆本来の濃厚な甘さとコクを味わえる“小さなぜいたく”を食卓にお届けします。

きりしきのパン

TEL 048-854-6910

FAX 048-854-6942

さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内

きりしき共同作業所のパンは食の安全・安心にこだわり、原材料に国産小麦粉を使用しています。（一部商品を除く）

職人とともに手がけるパンは、少し儂かしい味と香りがします。



弁当屋 いちぶ

TEL・FAX 048-684-1257

さいたま市見沼区染谷2-145

そめや共同作業所のお弁当は旬を感じる手づくり弁当です。

野菜をたくさん取り入れ、手が込んでいると女性に大人気です。

鴻沼福祉会から読者の皆様へ

○鴻沼福祉会では、袋詰め・部品組み立て作業や清掃作業、資源回収など、地域の企業様のニーズに応えるべく様々な仕事を受注しています。働くことをおして障害のある人がさらに輝けるチャンスを求めて新しい仕事にもチャレンジしつづけています。

○障害のある人たちの就労支援、生活支援、相談支援のスタッフを募集しています！ 問い合わせ先：048-854-6890（担当オガワ）

鴻沼福祉会事業所一覧

●本部・事務局 埼玉県さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内 TEL：048-854-6890 FAX：048-856-0313

《はたらく》●つばさ共同作業所（中央区） ●あざみ共同作業所（見沼区） ●そめや共同作業所（見沼区） ●きりしき共同作業所（中央区）

《くらす》●第1たかさご荘 ●第2たかさご荘 ●第3たかさご荘 ●かえでホーム ●かりんホーム ●よつばハイツ

●なつめホーム（以上、中央区） ●のぞみホーム（見沼区） ●ひかりホーム（西区）

《ささえあう》●中央区障害者生活支援センター来夢 ●地域活動支援センター来夢（以上、中央区）

●見沼区障害者生活支援センター来人（見沼区）

さいたま見沼よみさんぽ

編集後記

表紙は東武野田線七里駅から二つ目の「30号踏切道」。住所は見沼区風波野で、二輪車以外の自動車は通行禁止という小さな踏切です。見沼区にはこういう踏切がいくつかあるのですが、電車の中から見ていたときには全く気づきませんでした。そばに行ってみれば、どれも踏切としての存在を主張しつつ、見沼の自然とうまく折り合いをつけています。

一枚の風景画を見るかのような踏切との出会いは、通りすがりの者の感傷と言われそうですが、自然と折り合ってこそその“人間の営み”だと改めて思わせてくれました。

(表紙写真・記 並木せつ子)

よみさんぽのあるやどかりの里の事業所

- やどかり情報館 見沼区染谷1177-4
- エンジュ 見沼区南中野286-1
- あゆみ舎 大宮区堀の内1-37 一武ビル1階
- 喫茶ルポーズ 大宮区天沼町1-136-2
- 見沼区障害者生活支援センターやどかり 見沼区南中野467-1 スガヤハイツ105号
- 大宮区障害者生活支援センターやどかり 大宮区東町1-141-6 第二吉田ビル1階
- 浦和区障害者生活支援センターやどかり 浦和区北浦和5-6-7 レジデンス北浦和104
- エシカルCafeとしょかんのとなり 見沼区堀崎町48-1

よみさんぽバックナンバーはこちらから
ご覧いただけます



公益社団法人やどかりの里



<https://www.yadokarinosato.org/kouhou/yomisanpo/>

さいたま見沼よみさんぽ 第52号

発行 2025年1月

編集 「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員会

〒337-0026 さいたま市見沼区染谷1177-4

Tel 048-680-1891 Fax 048-680-1894

E-mail johokan@yadokarinosato.org

<https://www.yadokarinosato.org/>

発行 公益社団法人やどかりの里

理事長 増田一世



公益社団法人やどかりの里

やどかり出版



公益社団法人やどかりの里は、この大宮見沼界隈で障害のある人たちとともに地域で生きることを目指して活動を行っています。私たちは長年この地域で活動し、地域の皆さんに支えていただけてきました。

そして、この地域の人々が織りなしてきた歴史・文化、守り育ててきた自然、地域に根づいた事業等々をもっと知りたいと思うようになりました。合わせて、やどかりの里のことも皆さんにもっともっと知っていただきたいと「大宮見沼よみさんぽ」を創刊いたしました。またこの度、広く地域情報をお届けするため「さいたま見沼よみさんぽ」と改題致しました。

「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員一同